

コスミックテクノロジーとユーザー様をつなぐコミュニケーション新聞

ありがとう新聞

発行人 有限会社コスミック
 広島県三原市円一町
 4丁目1番40号
 代表取締役
 小積 忠生



過去の学び
 未来につなげる
 それが
 現代に生きる
 私たちの使命

今月の言葉

生命力再生共働体として



コスミックテクノロジーをご愛用の皆様、いつもありがとうございます。さて、ご存知の方も多いことと拝察致しますが、コスミックテクノロジーを広く愛用していただき、皆様

のお役にたてる為に、私たちの活動を「生命力再生共働体」と、あらたに定義しなおし産業界や、大学の研究機関の識者・経験者の方々と一緒に、活動していくことになりました。と同時に「私たちの活動を私的な物ではなく公の利に資するものにした」との気持ちを顕すために開発商品の「コスミックパック」また生成される水「リバイブウォーター」の名称変更も検討しています（裏面に関連記事）。

（代表取締役 小積忠生）

活動事例プレゼンをおこないました

去る11月21・22日、京都大学名誉教授・池上惇先生、京都フォーラム事務局長・矢崎勝彦様を交え、経験者によるコスミックテクノロジーの実践発表会がおこなわれました。その様子を紹介します。



二〇一〇年11月21・22日の2日間、大分県佐伯市および大分市においてコスミックテクノロジーのプレゼン大会

会がおこなわれました。第1日目は、佐伯市の蒲江にありまず「いだち水産」様で海水魚の養殖での技術活用状況を視察、その効

果を目で確認しました。

また、2日目は場所を大分市の東洋ホテルに移し、プレゼンテーションをおこない、最後に池上先生、矢崎様の講評でしめくりました。

2日間のプレゼンテーション大会で、改めてコスミックテクノロジーの効果を確認しました。そして今後のソーシャルビジネスとしての、また、コスミック化しない（私物化しない）開かれた会社としての事業ビジョンの確認がおこなわれた大変有意義な2日間となりました。



▲いだち水産様の事例見学

▲事例の説明を聞く

▲懇親をかねた食事会

▲活発な意見交換がありました



プレゼンダイジェスト

プレゼン内容

A&R 株式会社様
 …病気からの回復事例の紹介、植物・水田での対照実験、家庭での様々な用途の事例発表

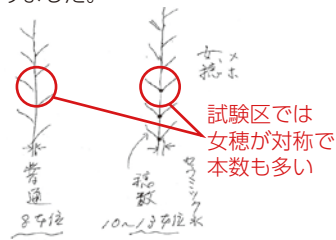
田中房江様
 …一次産業で活躍。うなぎ、ひらめ、フグ、牛や水稲の育成指導事例の発表

ミツイ水産株式会社伊藤吉成様
 …仕入れ先の養殖場に技術導入を勧め、賞味期間の長い刺身を商品化した事例を発表

有限会社コスミック
 …会社創業の背景と事業ビジョンの発表、事例の発表

A&R 様様の発表から

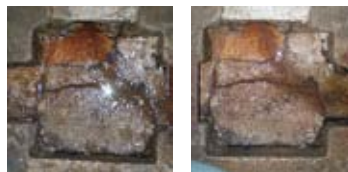
家族の病気からの回復、ミヤコフスレやローズマリーの発根事例、トウロク豆の灌水効果、さらに水稲の収穫量などの実績を発表。その経済性や効果の優位性が確認された。さらに、生産現場ばかりでなく、家庭内の清掃などへの活用事例、利用者のレポートの発表などがありました。



▲試験区の稲は女穂のつきかたが違い、穂の数も多い「びっくり現象」がありました。

田中房江様の発表から

水田での活用事例と土の変化の詳細を発表。昔の土のにおいが復活し、収穫もアップ。畜産と堆肥処理、養殖魚の内蔵の美しさ、品質などを発表。水の放置実験もおこないました（創刊号で紹介）。



▲施工前

▲施工後

▲こんやく製造工場に、セラミックスを導入。導入前と導入後の排水ピットの比較。カビ発生が少なくなったようです。

ミツイ水産様様の発表から

フグ刺身商品化の事例発表。細胞に含まれる水に着目して技術導入。歩留もよく、ひいてから15日たっても美味しい刺身ができました。また環境への責任や、良い品質で日本ブランドの評価を高めていく事業ビジョンの発表も。



▲ミツイ水産 伊藤社長

私たちには排水への責任と自然に対する恩返し責任があるのです。

環境評価は計量化が難しいそれを「数値化みえる化」できるといいですね。ハエの減少なども大切な指標です。

▲矢崎 勝彦氏

自らつくる水の物語をあなたもはじめませんか
…講評の「じよびよ」

京都大学名誉教授

池上惇先生の講評 (要約)

みなさんのプレゼンを聞いて、技術もさることながら、仕事や生産物への愛情というものを強く感じました。その愛情でこの技術が活かされ、生命蘇生技術が実現したのではないかと考えられます。

現代における技術の評価の尺度として、次世代・未来に活かせるものになりうるかどうかが大切だと思います。コスミックテクノロジは鉄を巡る古代の知恵を現代の技術をもって永続的な未来の実現につなげるものであり大いに評価できると思います。

この技術は全てのひとを幸福にするツールと考えられます。新しい技術は、企業や団体に普及するのは様々な利害関係や思惑から難しい面があります。そこで現在開学に向けて準備中の「まちづくり大学院大学」でも「生命蘇生学」のような講座名で広く市民の興味をひき、コスミックテクノロジーの研究、現場実践、交流を通じ情報技術も利用しながら知らしめることが大切ではないでしょうか。



京都フォーラム事務局長

矢崎勝彦様の講評 (要約)

「自ら」この言葉は「みずから」「おのずから」のふたとおりの読み方があります。「み

ずから」は自己が主体であり、「おのずから」は大自然が主体になります。



今日は大自然と自己の対話によって生まれた「あわいから」の気付き・感動が多くありました。これらの実践で「今、ココ、私」が未来にむかって何ができるのか。その問いかけがみなさんの心を熱くして、志が産まれていくとおもいます。

志の実践に際しては理と気のバランスも必要です。動き出すあつい志を、理が制御することが大切です。

近代の多くの経営者は「自力」を旨とし、経営自体を目的とし、人間を経営の手段と勘違いしてきました。そうではなく経営者は良心の学習者になり、良心の理の制御を使いながら、他力の力をかりていくことが必要だと思います。

きょうは女性のパワーをすごく感じましたが、それは近代の産業社会を一番遠くから見ていたからではないでしょうか。この人たちが次世代のちからになっていると考えています。

コスミックテクノロジーの取り組みを論文にまとめることは意義の有ると思えますが、物語として書けば、読む人はみな自分との関わりとしてとらえるし、みんなが普及者となって普遍化してくれるのではないかと期待しています。

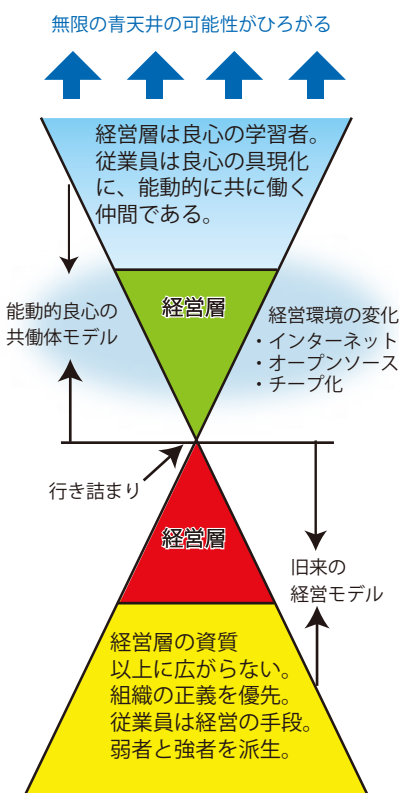
生命力再生共働体発足の「じよびよ」

近代の経営者は、その企業や出資者のために利潤を追求し、従業員をその経営の手段として捉えることが多く有りました。また、その会社は経営者の資質以上には大きくありませんでした。企業間の競争は、弱者と強者を生じ、弱者は排除されるのが常だったと思います。

梅田望夫著「ウェブ進化論」のなかに、発展途上国のコレラ対策についてこのくだりがあります。各国の代表が集まって解決しなかったこの課題が、ネット上で提示されると、様々な関連のプロたちがネット上で協力し合いわずかな期間で解決をみた、というものです。

メンバーが夫々属する組織の利益代表ではなく、良心を持った個として、課題を解決できるこの集団は「能動的道德共働体」とよぶことができると思います。

人類が共に良心に従い、共働体を作ることができればそのさきには無限の青天井の可能性がひろがる



お客様へのお願い

コスミックウオータを使って「あ、かわったな、よくなったな」と思われる事柄がありましたら、ファックス・電話・メールで有限会社コスミックへお送り下さい。ありがとう新聞で紹介させていただきます。

ファックス 0848-64-3652
電話 0848-64-3584
メール cosmic@vega.ocn.ne.jp



限の青天井という幸福があるのではないのでしょうか。

弱い者同士がお互いを認め合いながら、永続的社会をつくる。コスミックの目指すのもそんな共働体です。

(矢崎勝彦様講演よりまとめ)